和書門
類 一七六八五
號
函 一七八
架 五
冊 五三

内閣文庫
和書
類 一七六八五
號
冊 五三
架 二二
函 二二
34

内閣文庫
番號 和 17685
冊數 53 (34)
函號 202 350

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫
和學講談所

鈴虫

五十歳　薫三歳

入道宮夏供養特仏事

入道宮住三条宮給事　朱雀院御慶分也

秋入道宮六條院寢殿作秋野於虫事　閑加具等之事

十五夜月入道宮詠月給折節諒氏君参給事

松虫（まつむし）鈴虫品定事

諒弾琴給事

兵部卿宮大將君等参宮御方給事

諒氏意故衛門督給事

同夜冷泉院御消息（おとづれ）猶六条則参冷泉院給事

有和哥作文奥事

六條院猶中宮御方御物語事

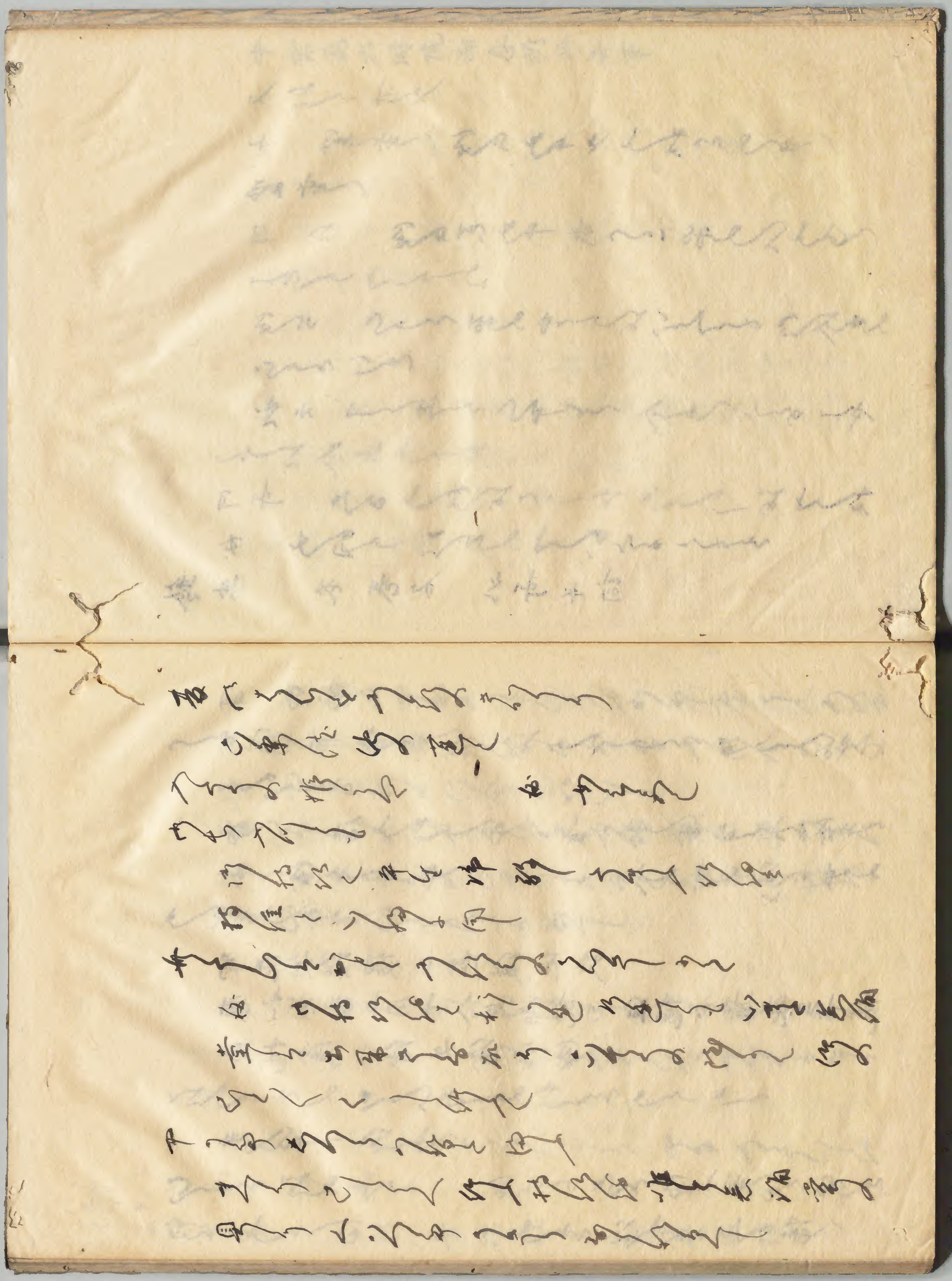
中宮爲六條院御息所修善事

鈴虫

巻名 以哥并詞

哥 おほかたの秋をはうしとしりにしを
河哥 ふりすてかたきすゝむしのこゑ
こゝろもて草のやとりをいとへとも
なほすゝむしのこゑそふりせぬ

詞云 すゝむしはこゑいまめかしくらうたけれ
御心のうちは草のやとりもいとはしく
[illegible]
河哥 御前の千歳をこゝろにかけて
雲の上を
千里の外の月をのみ
久しく



国立公文書館
National Archives of Japan

ちくさの内　[illegible]嬉し
ひとしきりの上より　[illegible]
来りなし[illegible]
[illegible]の[illegible]
花机覆　縹文紙同[illegible]
應和元年五月十八日御記曰　経櫃谷置花三下机
加花文綾覆　二色綾地敷
[illegible]
[illegible]　今の世の[illegible]
[illegible]　唐[illegible]　唯[illegible]綾[illegible]
[illegible]
[illegible]
何四句し

む　[illegible]
[illegible]曇茶羅[illegible]
[illegible]
菩[illegible]夜[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]仏壇[illegible]
[illegible]仏壇[illegible]前の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
何　曇陀羅
[illegible]　曇茶羅

[illegible]二[illegible]紙
申[illegible]

松名 オ七　謡茶還

ふくしきまのみえそ

松 美たかてし　同 今

こゆりく人唐の百世のかあそみてと　失二字ナシ

同 百我香 うちくしれるのまるちいさ

松 百世のかわそうりし みちまちさえて

も 重花のふめて

松 ふしのみつく 人 きさめへし

阿 阿弥陀 脇士菩薩 観音勢至

花 観経云无量寿仏住立空中観世音大勢至是二大士侍立左右云々

二大士脇侍也　同 松

阿 唐太宗文武皇帝元貞皇后造栴檀等身像

三軀 延喜式 盧舎那 并 脇士菩薩 白栴檀一龕 龍龕也

阿 閼伽具 禁語也

ありふる人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今も有りし 字得

年ありくふれ

阿 花葉か 重もありくるまてあみ かみ　同 今

とふ今もれかしく

ふらんくし行ゐみれ

蜂蜜

しらまく
み蜂のなかくて　よそにしかつて葉におかめ
す以茶のかくすもかくして持てるかくに
く抹茶のうかんしにまかしもいろもかは
かくもしこまし
かりそめのかみ　荷葉のかほりも苔を
かりかのかきさく
こまり荷葉のおり　こすてきましかか
すみぬかれこみ　きみにこく
秋　ならしのこうきるさく
らりしまりつかいてく
花　天暦九年正月四日村上天皇為母后被供
養宸筆法花経百八講

秋　女三宮の御持仏
新　御の自筆にうつしては
らかのいりをかうかはいのうらむ
秋　御もおとらん女三宮の持経のなれてすく
さくもといかりそまて
さくそ以まさる住
秋　御経の住こかりを住たつる待ちそる
ものから御あく
秋　ちくこおもいら
かけてるうとる　作計　小博金
すいつちあてかつかつ
さくかりそのうちて　御の星をきそてかなら
みて世こゆく

もとこもんちんのまへ〳〵つくえに
阿弥陀足机 わたしと燭也
頂戴也 一 御やう同帳台也
経の机 仏前の北上りなとへよせ
并香しかたし 香炉のほとりにおき
四角なるつくえ 中なるは経の仏前にあり
らいさうとよし
仏の前には門 向うのちかい 経机
香台でもよろしく
尤 帳台のへかけりし 経の机
並にうまく前し
阿弥陀 白金の袖 一 寸中ならや下の袖り
なとおき 〳〵のくとく

わかの御帳台 と 経机 〳〵
なりけし
なを 仏の白金の経 あつかい とものゝ
弟子 師の前にすへし
なお 仏のまくくら 机 すへくなり 人も
唐寸二寸高寸二寸 削 そて
ましめ おもて 九寸 にはし
うちにかけ ひえ 又 ていう
阿弥陀ていうきやくの 式の 准摩の檀なと
すへし
善かくに 仕る所 初と
かしらてまかり 講師
きやうくのく 又 の

一 組香一炷之一　何組香にても
見習賞任之し　其白銅座多座中間
結願銅蓋両座説并組之請人数
弐八人　弐四人
随も組にても香く御座候し
ゆへのあれんしん　御の後合の内かたに出さしやうへし
香続之出るあるへし　かんにをまれるひとつ所に
きつてまての香さちせん　としかいの
申し候さ御申し
そんうくいつて　一かうてんせ
一 於 せしくちの内香く御申し
うそらのおけん　於 證紙 に 人と記から

一 十種香あるてしよく
ちのきたんとこめかすへん
人やすの御てかそて
もしの焼香かわれ
そて御出さ　香のきしょうあるまいみ
かしきうかくしきつてまて　香
きへし焼香を出し　行けし
かしくるいかへて焼く
わ焼らてし　ゆへん
御のく出まつし
薫く
かうしもこくとうふう
焼香　御の出して　おしや
かしてくれ
一 こと出之の十種香かへ

御あとをしたひゆかんとて
ちりのちりにもまじはらん
地 花さくらのあめにぬれ女ごころ独り行末
つらきみやこのうきに向ひて
おもひしかつきまつ人のこゝろも
シテ 女ごころのあはれさを人にもしらせ
まくらにかはして
かなしさいとゞ人めもなく
御身のうし女こゝろは御そばにあるかたもなく社
世の中とはさぞ行かん御心ばかりそ
ふかきつまとは思ひしにさのみもなく
しらぬ世にかはり
もはや世をすくいつくしさの御ゆかりし捨てまかせし
かなしく
ふたたびの中をかくも
何一己世中華盡漏　夢己盡先生人
各留半座乗華葉　待我閻浮同行人　五念讃
地 ふかき御かたみの扇のかたちをみおろしかはる世を
ふかきかたみの御かたみ
かくて御かたみの扇
秋 扇の色
シテ 扇の扇
つらきおもひの扇
女こゝろのかなしさも扇を世にくらへてはかなく
行くつらきも行ては
秋の月のかくすは行末の事をおもひて

こも御に新し一葉にすみて由ありしかし
ふかきつるみえ
す 御に似たる人にすゝしく
又新しき一葉にすゝ御にうつしとて有る
いねしむすかも此歌にいふ 御の歌し
折ありひくをもゆふべにて 御の歌
かうりきのふうりゆく内
七ちうの御婦へ 拵物

河 七僧法服 講師 讀師 咒願 三禮
唄 散花 堂達 謂之七僧

秘円載之

御記曰天暦四年六月九日丁丑於白理子内
親王家於円成寺修周中九日御法事其仏経
管経具及七僧法服断物等須給令調備使左近

大将伊尹誦経布施調布二百端又差侍臣
五六人一乞行香役
みるしおくへてそ世をすくすらんとめてかゝりつゝ
すゝめくい世をかくしえつゝかゝりつゝ
なきしこの御うつしつ 松 若菜はつみし
さうふいのはるにしたくとまれよ
松 女三の宮のうへまつ
すつれ世もなりつる御ゆきさる送
御かくふこいるの事すへし
かうけちゝれしくなし 松 斤おもかくし 斤
河 寛筥 斤香のつくし 少将師輔女方
ふしかたるゝ
こゝみえ三のひへ

松　ゆくかうへし
む　山緒住まて
内ましらかうへらし
松　ふそもの晴らし
内書とらも晴くしもさしもわかし
松　肴罷し
晴りすくてくまつゝ
とくくせしとふ〱
ゆかくのてゝかいて不かりしまゝく
河　蒼苑霧雨之霽初寒汀鷺立童畳烟
嵐断飛晩寺僧帰　閑賦
む　又信もゝ布施持ちはくりゝもへら
とのつもりおもすもとつてまかくし
僧もはつてまらもとをのり候乎夕乎々
うけらいも加し
松　此布施の多取ならて涙絶おつゝゆか
河はうくゝ白布しもて
今しも仏をもしくく
くらすかなくかゝゝてかゝゝく
松　さゆらく行寺
晴すうらく無常なもつゝのうかす
む　晴の人のくへ仏のかくうらしゆかく
ことうかをいゆうもをゆるく中へ〱さまし
さらゆく
松　朱雀院く二条あ様よく道かもゝ
いまさくはしこゝまわして京くゆて
くらもくまくいゆかつかゝりくし
朱雀て给はちゆこうとくこゝゆつゝ
まつく二条へくるくまつくゆゆのかく
かさましの分留くいまくにゝて御まれつせ

きりさもんのせ一
河 きこえたまふものからいと仰事おほく
みこたちもおほむすかたも
おの〳〵つまにうしろめたく
こゝにおはしますかたのつきにて
こてらのみやけのさとに
河 令諸国興田部屯倉 日本紀
ひえのまうけん
余所の女三のみやのおほむかたの
さうしのかたの御ん
と御かへりさいてん
わかみかしのまへあまたにて
母 女三のみやの御まへにまいりて

わかしろきことひきて〳〵さうら
かくさまつるすたにて
ゆすくかねそつきてかなへのたまへらむ
うかゝひ
松 尼君かへて
十よ人はかりのゆいて〳〵ことはりとくいはゝ
母 尼君のゆのかたのみことにのかせ
かくそせめてかへりとゆの御かた
タへのまへにてうちかへり
御のかたみのまへになりて御かへ
御かへりのかたへなのかへりてき
ものゝこゝのかたにて御かたへ
御のかたへまゐり
松 女三のみやへ
母 女三のみや御かたのおほむかたへ

[illegible]

十五夜の月のさやかなる
ねもしらずあけぬれば
ち八月十五夜の月のさやかなる

[illegible]

阿弥陀大光
阿弥陀大光
[illegible]
中[illegible]
[illegible]

十三日

十三日

脫當作慨也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

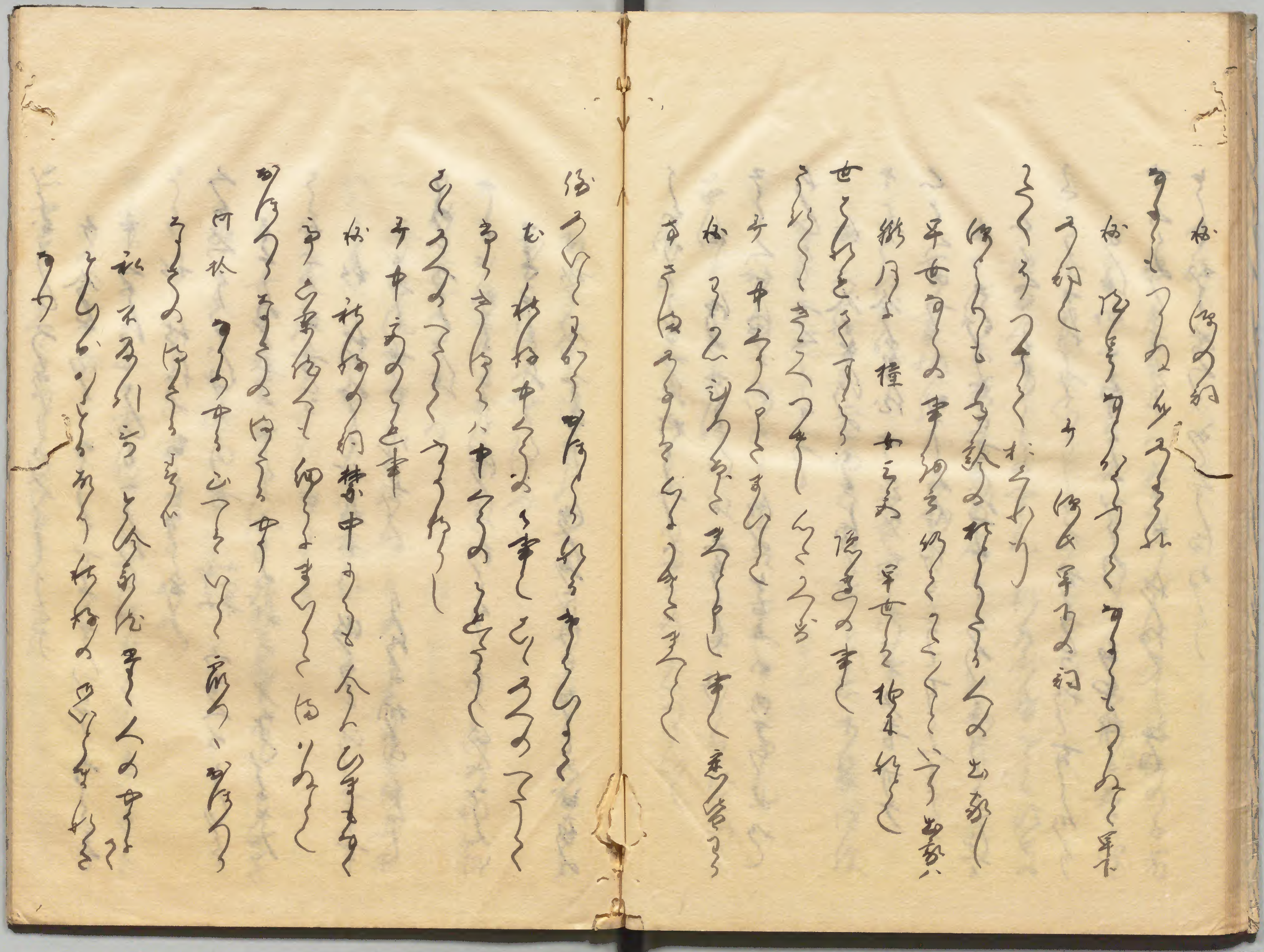
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盂蘭盆経云 [illegible]
同連長者問 同連羅邪郡 唐云宋 叔氏
盂蘭盆経云若餓鬼中同連救母生天
経云五大焦熱地獄中 経養老元年 救母
経八大藏同連外也
[illegible] 同連[illegible]
[illegible] 餓
[illegible] 救[illegible] 盂蘭盆
経[illegible]
[illegible] 羅[illegible]
[illegible] 救
救同連救母経 只盂蘭盆
経[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
救 [illegible]
救 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan